

第4回 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会 記録  
検討委員の発言の概要

(2) 報告

①に関しては質疑応答や意見はなし

②及び③に関して

【質疑応答や意見の概要（○は検討委員の発言、☞は事務局の発言）】

○ 北村山地区から山形市内に通学している生徒のうち、普通科の高校及び専門高校に通う生徒はどのくらいか。

☞ 普通科の高校及び専門高校に通う生徒の割合は把握していない。

○ 高校の所在地に対する生徒の希望は北村山地区以外が約40%で、それが実際に地区外に通う生徒は約50%に増えるという説明があったが、いつごろからこのような傾向か。

☞ ここ3年は同じ傾向である。今春、北村山地区を卒業して、東南村山地区の高校に入学した生徒は、公立あわせて45.7%。北村山地区の高校に入学した生徒は43.1%である。

○ 問4の「これまでの高校以外の、特色あるタイプの学校の希望」では、総合学科が北村山高校にあることや、楯岡高校が単位制であることなどが分かっていない中での回答か。そのあたりをどのように分析しているのか。

☞ 意識調査では生徒からの質問に答えるための資料を準備した。その中に総合学科を持つ学校の説明があり、「県内では5校設置しています」ということで、北村山高校、天童高校、高畠高校、鶴岡中央高校、庄内総合高校と書いている。

北村山地区の子どもたちにとって、通学範囲にある総合学科は天童高校だけで、知ってはいるが、目新しいというとらえ方になっていると思う。

○ 問2の「進学高校決定の際に重視する事項」で、「通学距離や時間」の部分は、保護者に比べ、生徒は比較的少ない。東根市など生徒の多いところはあまり意識しないが、大石田町・尾花沢市は意識はしているものの、全体の数字としては出てこないということもあるのではないか。

☞ 委員からあったことも要因の1つではないかと思う。選び方として、まず、能力や適性があり、次に希望する学科、部活動という順序になったのではないか。通学時間や距離、学費ということは課題としてあるし、地域性もあると思っている。

先程、専門高校への入学者の質問があったが、東南村山地区には工業科を持つ学校が、山形工業高校、電波工業高校、蔵王高校の3校ある。この地区から山形工業高校への入学者は20名から30名程度になっている。

### (3) 協議

#### ① 「どのような高校の配置が望ましいか」について

【質疑応答や意見の概要（○は検討委員の発言、☞は事務局の発言）】

- 生徒、保護者ともに普通科への志向が高いことを考えると、楯岡高校を残して、そのレベルを山形市内の東西南北に行かなくてもいいようなものにして、充実した普通科高校として残したほうがいいと思う。
- 孫たちのことなどを考えると、本当に減らしていいのかと思う。伝統ある高校もあるので、学級数を減らして、学校を継続する考え方もあるのではないかな。
- 生徒も、保護者も普通科志向が高いので、普通科教育の充実を図っていかねければならない。楯岡高校があるが、内容を払拭し考え方を変えるような高校を新たにつくらないとなかなか難しいと思っている。楯岡高校という名前では厳しい。大学進学希望も含めて、高い割合になっているので、相当レベルの高い普通科高校の創設が必要と思う。

同時に、地域の産業の視点も大切で、北村山地区の特徴ともなっている、果樹を含めた農業や工業的な内容は残すべきである。

- 希望する学科で、総合学科が予想外に多い。子どもの発達段階を考えると、どの高校が向いているのかを判断できない子どもが相当いる。大学進学もはっきりせず、商業も福祉も学びたいという思いが総合学科に集まったのではないかな。子どもの発達段階を考えると、総合学科は棄てがたい。

この地区は県内でも学力が高く、大学を目指した子どもが多くなっている。普通科希望が約60%になっているのは納得できる。

- 山形市内に進学する生徒を完全に遮断しない限り、北村山地区に残すのは難しいということになってしまうが、それは現実的ではない。

地域には農業関係の人材育成や若手の起業家の育成の取組がほしい。

今の時代は、伝統に縛られてはいけなし、その伝統を超えるような人材を育てなければならない。新しい分野を開拓するような人材を育てる学科があればいいと思う。

- 希望する割合の高い普通科はこの地域にあるし、新たに望まれる特色あるタイプの学校もこの北村山地域の高校にある。各校が特色ある学校づくりに取り組んでいる。自動車に関する学科なども東根工業高校にある。

特色あるものをそれぞれの学校が持っているが、それだけで、十分な人材育成ができるかというところとは限らない。例えば、楯岡高校に特進科を設置という意見があったが、もう一つ特色あるものをつくるのが大切ではないかと思う。

- 地域に子どもたちが帰ってきて、地域が発展するという事になれば理想的な学校の配置ができることになる。

経済的なことで今ある高校の1つをなくして3つにするということではなく、

新しい場所に、新しい高校を設置していく選択肢もあるのではないかと。

以前は普通科に入って、途中から就職と進学に分かれるようになっていた。高校入学時はそういう判断ができないので、普通科でも選択肢がたくさんあれば、生徒は集まってくると思うが、そういう学校はできるのか。

- ☞ 高校教育改革は、子どもたちにとってよりよい教育環境を整備する、ということを中心に進めている。

基本的な考え方は、少子化への対応ということになる。ここ10年間で公立高校の学級数を55学級程度減らさなければならぬほどの生徒数の減少がある。

なぜ減らすのかということもあるが、法律により、学級数と教員数の関わりがある。また、生徒の学習にも関わってくる。先生が少ないので、科目の開設ができなかったり、例えば生物と化学を開講しても、化学を生物の先生から習うようなことが生じ、生徒にしっかりした学力を身に付けさせるという観点から、望ましくない状況が起こってくる。

部活動についても、例えばブラスバンドで少人数の編成になってしまったり、野球でも人数が集まらず、出場できないようなことにもなってしまう。授業やさまざまな活動において支障がでて、望ましくない状況になってしまう。

また、先生にとっても、別の先生に教科指導のことを相談することもできず、つらい状況がでてくる。複数配置されていれば他の先生に聞いたり、勉強しあったりすることができて、それが生徒にはね返っていくことにもなる。

さらに、生徒にとっても、一定の生徒数の中でもまれることが社会に巣立っていくということを考えた時に望ましいことであり、このまま一つ一つの学校が小さくなっていいのかということで、再編に取り組んでいる。

先程、この場所にきちんと学校をつくれるのかという質問があったが、ここで答えることは難しい。ただし、この検討委員会でまとめていただいたことは、責任を持って教育行政に反映させなければならないし、しっかりと伝えていく義務がある。

子どもたちにとって望ましい学校がどうあるべきかについて、御意見をいただきたい。

- この検討委員会では理想的な視点から話を進めていきたい。

学校規模についても話が進んでいる。今のままでは小さくなっていくことが、生まれた子どもの数から予想がつく。その時に、教育上の支障がでてくるので、どのような学校規模が望ましいかになっていくと思う。

- 自分の母校を地域からなくすなということが強く感じられる意見がある。また、「今ある学校にこだわってはいけない。時代の流れにさからえない」という意見もある。統計上の少子化は事実で、20年、30年後の推計を見ると、気持ちが暗くなる。そのような中で、4校残せという話は、大丈夫かと思ってしまう。教育の充

実がうまくいかなくなるので、再編が必要になっていると思う。

中学校3年生も保護者も、普通科の希望が60%程度になっているが、社会が高度化しているので、まず大学へということで普通科希望になっていると思う。

この結果のような、学科の志望のバランスにあわせた中学生の進学指導ができていないのか。希望しない学科への入学は、子どもたちにとって不幸なことになる。

これまでの流れから、普通科のレベルアップが必要で、そのための手立てとして、特進コースとか中高一貫教育などがあるのではないかと。

- 希望する学科の数字のとおり生徒が進学しているのかは分からない。中学校の進路指導は、入りたい学校へという指導になっている。

北村山地区から46.7%の生徒が東南村山地区に進学しているが、山形市を中心にいろいろな特色を持った高校があり、例えば、レベルの高い進学校や、商業科を持つ高校、私立高校もあるということで、高校の数のバランスというものが影響しているのではないかと。

- 農業高校は、これまで役割を果たしてきており、調査の意見の中にも、「フルーツ科」とか、農業科は残すべきという意見がある。しかし、中学校3年生の希望は1.6%で、中学校保護者は0.8%程度の希望である。それを直視しないと難しい。アンケートの結果からは、農業高校はいらないのではないかと考えた。

農業は高校を卒業してから学ぶべきもので、大切なのであれば、専門学校として全県で1校でもいいのではないかと。

- 少子化により、学校の統合の必要性は分かるが、今ある4校を継続して、伝統的な良さを見つけながら、クラスを減らしてじっくり考えた上でも遅くないのではないかと。それでも、見直しの時期が来るので、その時は、今考えているようなことをやっても遅くないのではないかと。

- 検討委員会は答申を出すのが、それを受けてすぐ来年からということではなく、実際に実施するためには数年かかっていくと思う。決してすぐのことではないし、数年後のこととして考えていかなければならないと思っている。

- 約60%の生徒が普通科の高校を希望しているが、進学のための普通科であれば、問2の中で、「進学状況」に生徒が関心を持たなければならないはずである。ところが少ない。とりあえずということでの、普通科希望ではないのか。

生徒は普通科でないと進学できないと思っているようだが、実際は専門学科の高校からも進学できる。鋭い感性を育て、特別なことを学んで、さらに上の学校で伸ばして、ものづくり技術者を育てるということが実現している。

高卒は即戦力にならないということがあったが、だから、上級学校への接続教育ということで、実業高校の流れを変える取組をしている。

中学校・高校の感性が育つ時期に、農業や工業の学習でものづくりの心を教え、感性のあるうちに道をつけることが必要と思うし、それは大学へ進んでからでは

遅い。そういう教育が大切だと感じている。

- 農業科からも工業科からも大学に進学するようになっている。そういうことをPRしたほうがいいと思う。そういう道がたくさんある。入った高校で運命が決まるわけではない。普通科の高校は、進学が重要なファクターになると思うが、そのあたりはどうか。
- 中学校では大学進学を目指す普通科の志望と、とりあえず自分が分からないので普通科を志望しているという、2種類の選択があるのではないかと。
- 進学率を高めるのは重要なことだと思うので、普通科高校の充実は報告の中に入れていいのではないかと。
- 専門学科の高校に向かう子どもたちは、本当に農業や工業を学びたいという目的を持っている。そうした子どもは伸びるし、普通科でも大学に行きたいということで学んでいくと思う。

とりあえず基礎・基本を身に付けようということで普通科に進学している子どもは、何をやりたいのか目的を探せないまま卒業するのが多いのではないかと。その後の就職もうまくいかず、途中で辞めてしまうということを目にする。

3年間の中で、夢や目的を持たせる教育が大切と思う。能力だけでなく、自分の生き方につなげていくことが大事だと思う。

総合学科は、いろいろなコースがあって、生徒が自分で選択して興味のあることを学ぶので大切な学科ではないかと思った。

- 学校の規模や配置などについて、「中間まとめ」をして報告することになっている。

これから、少子化は避けて通れず、だんだん学校規模が小さくなっていくが果たしていいのだろうか。かといって、4校から1校までのさまざまな意見があったが、まとめて1校にするのもちょっと大きすぎるのではないかと。

4校にそれぞれの特色があるが、入学した生徒が部活動も充分でき、授業も専門の先生から習って、隠れた才能を發揮していくようにすることが一番取り組むべきことではないかと思う。

具体的に数ということがあるが、学級数について説明してほしい。

- ☞ 現在、東根工業高校が工業科3、家庭科1の4学級。楯岡高校が普通科5学級。村山農業高校が農業科3学級。北村山高校が総合学科5学級ということで、4校で17学級になっている。これが、平成26年には14学級程度まで減じると見込まざるを得ない。

4校とも素晴らしい学校、という評価をいただいたが、これまでや今ではなく、これからを見て御意見をいただければと思っている。

- 子どもたちの数がこれからも減っていく予想があれば、2校にしなければならない時期がくると思う。今ある4校で相互に授業が展開できるような学校で、さ

さまざまな選択が可能になるようにすればいい。普通科の1校と専門学科の高校1校にして、生徒や先生が曜日によって移動するようなことができれば、2校でも可能であると思う。

- 26年までに現在のクラスが3クラス減るのであれば、その後の5年で3クラス減ることになって、10年間で6クラス減らさなければならなくなり、半分近くになる。10年先を考えると1校で充分ではないか。距離的なことや交通の便を考えると、この地区を1校にするのは無理なことと思っていたが、1校も考えられる。

地域の特性を踏まえ、距離的なことを考えてほしいし、さらに他の地区からやってくる子どもたちがいるので、そういう子どもにも配慮がほしい。この地域には下宿の子どもたちも多い。地域の格差を考慮すべきである。

### (3) 協議

#### ② 「中間まとめ」及び『「中間まとめ」に関する地域説明会の開催』

【質疑応答や意見の概要（○は検討委員の発言、☞は事務局の発言）】

- 北村山地区を考えるのであれば、谷地高校は地理的に近いので一緒に考えるという視点があってもいいのではないか。
- アンケートでは谷地高校や山形工業高校のこともあったが、そうするときりがなくなってしまう。ここでは北村山地区ということで話を進めたいと考えている。別の地区の再編の話は別の場所で検討されていくと思う。
- ☞ 谷地高校は確かに近い。一つの考え方をまとめる時に、確かに視野には入れているが、そこまで踏み込むと、天童高校などの話も出てくる。
- 村山市と東根市に1つずつあればいいのではないか。地域の問題もあるので、北村山高校はそのまま北村山高校として特色ある高校にしていく。そして、村山農業高校、楯岡高校、東根工業高校の3つの高校を1つにし、しっかりした高校をつくっていく。1つになったほうがパワーになるのではないか。  
楯岡高校と東根工業高校は老朽化しており、新しく別のところに3校まとめてつくったほうがいいのではないか。
- 今日の協議も踏まえながら「中間まとめ」をまとめたいと思う。私と事務局にお任せいただいてよろしいか。それをもとに、委員の皆様に見ていただいて御意見をうかがって、説明会に臨むということでもよろしいか。
- ☞ 予定では、「中間まとめ」の説明会までの間に、今日までの検討のまとめをさせていただいて、まとめがついたところで、委員の皆様にもまとめられたものをお届けして、御意見をいただいて、練り直して、皆様から御理解をいただいたところで、説明会の原稿にしていきたいと考えている。

以上